

関の設置。(2) 調整機関の設置。(3) 部局図書室の機能分担と連携・調整を実現するための組織の一元化。(4) 機能別に大胆な図書館の再編成を。思い切った組織改革を。(5) 部分的な統合・合併にむけて検討を。(6) 部局図書室の管理運営について附属図書館の基本方針の表明を。(7) 附属図書館と部局図書室を一体にした図書系組織の発足。(8) 小規模図書室の統合(専門分野、立地条件の近接ごとに)。(9) 外部

資金の導入。(10) 業務の一部のアウトソーシング。

7. 施設について

(1) デポジット・ライブラリーの設置。(2) 逐次刊行物集中管理センター。

(3) 書誌作成業務の集中処理センター。

8. その他

(1) 地域における図書館界の連携。

附属図書館資料紹介

沢山の寄贈図書が書架に並びます - 片田文庫について -

平成11年9月6日、再生医科学研究所の永田和宏教授から、附属図書館の熊谷事務部長に「故片田 清氏の蔵書を寄贈したい」との電話があり、同時に膨大な量の蔵書目録が送られてきました。

我々は、附属図書館の書庫はすでに満杯に近く、まとまった形で寄贈を受けるのは困難という考えを持っていましたが、約1万4千冊の蔵書目録や、直接故片田氏宅に伺い蔵書を見せて頂いた瞬間「上品な書店」という感じがし、蔵書内容から「絶対京都大学の宝になる」と判断しました。その後、附属図書館で検討した結果、寄贈を受ける。将来は分散配架するにしても、当面は「片田文庫」として一括して開架書架に置き、多くの利用者の皆さんに読んで頂こうと判断いたしました。

その蔵書はすべて全集物で、多くのジャンル(宗教関係の図書は無い)を網羅し、現在手に入れようとしても不可能なものがありますし、古書として高価で販売されているものも沢山あり、初版本が多く見られました。現在も継続して出版されている新しい全集もあります。

寄贈の際、何回も広島から駆けつけ大変な尽力をくださった、従兄弟の片田欣也氏によると、片田 清氏が亡くなったのを知った書店

が、段ボール箱に入った全集を数箱、慌てて配達に来た。その全集物もすでに代金は支払っていた。というエピソードもあります。

現代日本文学全集 増補決定版 143冊。吉川英治全集 114冊。など文学関係のほか、政治、思想から芸術、長谷川町子全集まであります。

故片田 清氏は、昭和28年に本学文学部仏文をご卒業され、その後、京都、大阪の高校で教鞭をとられ、平成10年12月31日に急逝されました。身寄りの方が無かったために、教え子である永田教授が、前々から片田氏が愛着を持っていた京都大学への寄贈を斡旋してくださったものです。

附属図書館で、通常1年間に購入する図書数を遙かに超える寄贈を受けたことになり、大変な作業量に達しますが、故人や、寄贈にかかわってくださった方々のご意向を一刻も早く利用者の方々に伝えるべく整理作業を行っています。

これらの蔵書が附属図書館2階の書架に並べられると、雰囲気が一変すると思います。

夏頃には皆様の目に触れるべく努力していますので是非来館されご利用頂きたいと思います。なお、この蔵書の寄贈にご援助頂いた、故片田清氏の従兄弟にあたる片田欣也氏、永田和宏教授、相続財産管理人の山下勝生氏に心より感謝いたします。